

「成人したら投票行こう」

この後、「投票を棄権したら罰金？」を問う模擬体験があり、生徒たちは投票記載台で投票用紙に賛成か反対かに丸を付け、投票箱に入れた。木村卓也君(四)は「成人したら選挙に参加しようと思った」と話していた。(梅沢あゆみ)

塾で塾議長は十二日、福井市光陽中学校で「明るい選挙出前塾」を開き、陽出三年生五十七人が投票の模擬体験など知識を深めた。



投票を体験する生徒たち＝福井市光陽中学校で

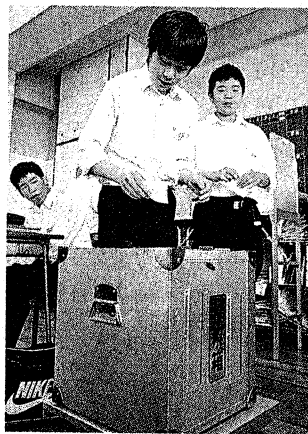
生徒たちが事前に考えた「投票率向上プラン」では▽投票に来た人にお菓子を配る▽インターネットで投票できるようにする▽テレビやチラシで宣伝するーなどの意見が発表された。

これに対し、同協議会の中村保之会長は「何かをもらえなければ投票に行かないなんてさもない」と指摘。インターネットでの投票は、信頼性が乏しいことやシステムのトラブルなどがあり、また制度として認められていないとした。

模擬投票で選挙に関心

光陽中での出前塾

若い世代の投票率低下に歯止めをかけようと、県明るい選挙推進協議会は12日、福井市光陽中で「明るい選挙出前塾」を



塾で出前選挙の生徒＝福井市光陽中模擬投票する生徒

開いた。3年生の2クラス約60人が、模擬投票などを通じて選挙への理解を深めた。

生徒たちは投票率を上げるために、携帯電話やパソコンで投票できるよ

保之会長は、電子投票は国が研究を進めていると説明し「政治や選挙をしっかりと勉強し、大人になる心構えをもって」と呼び掛けた。

生徒たちは実際に選挙で使われている投票箱を使って「投票を棄権したら罰金」の賛否について模擬投票し、投票の流れを体験した。豊原祐美さん(14)は「これまで選挙に関心がなかったけど、20歳になったらちゃんと行こうと思った」と話していた。